

マイプロジェクト



I マイプロジェクトとは

(1) マイプロジェクトの立場

マイプロジェクト（以下、マイプロ）は、のぞみタイム（総合的な学習の時間）の中核を担う学習であり、一人一人の子どもが自分の興味・関心を基に内容も方法も選択・判断・決定しながら進めていく個人探究である。

(2) マイプロを立ち上げた経緯

グローバル化の進展や生成 AI などの技術革新の発展に伴い、今後、ますます未来予測が困難な時代が到来する。このような時代をよりよく生きていくためには、様々な変化をただ受け入れたり、与えられた情報を鵜呑みにしたりするだけではなく、なりたい自分や解決すべき問題を見いだしながら、多様な他者と協働し、最適解を生み出し続けていくこと、すなわち探究的に学び続けながら自分の生き方について考え続けていくことが一層、求められている。

このようなことを踏まえると、探究的な学びを通して自己の生き方について考えていくことの中心的な役割を担う「総合的な学習の時間」の在り方を見直し、改善していくことは必要不可欠なことであったと考える。

そこで、一人一人の探究的な学びを一層充実させ、自分自身の在り方や生き方についてよりよく考えていくことができるようにするために、「個別の探究課題」を基に「個人探究」を3年生後期から6年生前期にかけて行うことにした。そして、この個人探究を「マイプロジェクト」と呼ぶこととした。

(3) マイプロの特性

個人探究であるマイプロには、表1に示すような特性がある。

【表1】マイプロの特性

	特性
対象	・ 3年生後期（10月～）～6年生前期（～9月）の児童 ※3年生前期（4月～9月）は、各学級単位で担任とデジタル探究 ※6年生後期（10月～3月）は、各学級単位で担任とキャリア探究
探究課題	・ 個人の興味、関心に応じた個別の探究課題を設定する。
探究過程	・ 活動する時間や場所を子どもが決定したり、調整したりしながら探究活動に取り組み、探究的な学習を展開させていく。
探究集団	・ 異年齢集団 ・ 担当の先生（チューター）
探究期間	・ 10月から次年度の9月まで。 ※ 3年生前期（4月～9月）は、情報化の進展を探究課題とし、各学級で担任と一緒に探究的な学習の進め方を学ぶ。そのため、個人探究であるマイプロは、10月スタートとなる。

(4) マイプロの価値

表1のような特性をもつマイプロには、以下のような価値がある。

- 各教科等の枠組に捉われず、一人一の興味・関心に応じた実社会や実生活の課題や問題を対象とした個別の探究課題を設定することで、真正な学びが実現しやすくなる。
- 一人一人が個別の探究課題を設定することで、一人一人が探究する必要性を感じやすくなる。
- 一人一人が学びの文脈や状況に応じて、「学びの進め方」を決定・調整したり、各教科等の学びで育成された資質・能力や育まれた見方・考え方を発揮したりすることで、探究的に学ぶことのよさだけでなく、各教科等での学びの価値を見いだす契機にもなる。
- 一人一人が個別の探究課題を基に探究的に学ぶ機会を保障することで、子ども自身が自分のよさや可能性に気付いたり、これからの生き方について考えるきっかけをえたりすることができる。

II 目標について

(1) マイプロで目指す子どもの姿

「マイプロで目指す子どもの姿」について意見を出し合い、共通するキーワードからマイプロで目指す子どもの姿を以下のように設定した。

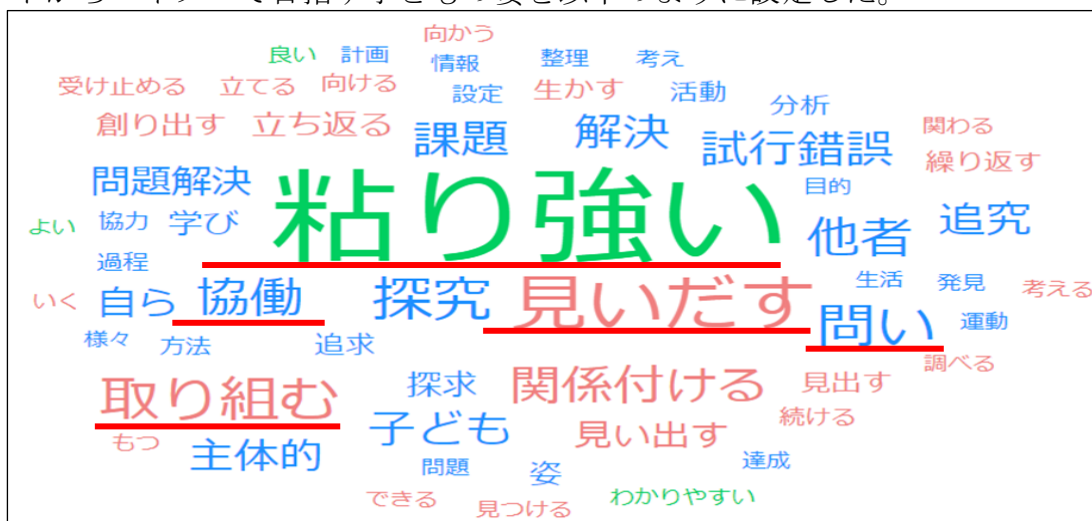


図1 共通するキーワード

自分なりの問いを基に探究課題を見だし、多様な他者と協働しながら、粘り強く探究的に課題解決に取り組むことで、探究的に学ぶことのよさを実感したり、自分のよさやもっと取り組んでみたいことについて考え続けたりすることができる子ども

(2) マイプロで育成を目指す資質・能力

目指す子どもの姿を具現化するために、マイプロの学習を通して、育成を目指す資質・能力を3つの柱で表2のように整理した。

【表2】育成を目指す具体的な資質・能力

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能	知識	探究課題を解決するために必要な知識を身につけることができる。
		技能	探究課題を解決するために必要な技能を身につけることができる。
		探究的な学習のよさの理解	探究課題を解決していく過程で、探究的な学び方のよさに気付くことができる。
	思考力・判断力・表現力等	課題の設定	自分なりの問いや課題解決の見通しなどを基に、適切な探究課題を設定することができる。
		情報の収集	体験やインタビュー、インターネット、書籍などの様々な手段を活用しながら、探究課題の解決に必要な情報を収集することができる。
		整理・分析	収集した情報を表やグラフなどを用いて整理・分析したり、仲間と話し合ったりしながら多角的に捉え、必要な情報を選択・判断したり、情報同士を組み合わせたりし、考えを創り出すことができる。
		まとめ・表現	伝える相手や目的に応じて、発表資料の構成や方法を工夫しながら考えをまとめたり、声の大きさや身振りを工夫したりしながら分かりやすく伝えることができる。
	学びに向かう力・人間性等	主体性 協働性	探究課題の解決に向けて計画を修正したり、多様な他者と協働したりしながら粘り強く課題解決に取り組もうとすることができる。
		自己理解 他者理解	探究課題を解決していく過程で、自分や他者のよさ、可能性を見いだそうとすることができる。
		社会参画 将来展望	学習したことを生活や学習に生かそうとしたり、新たな課題を見いだしたりしようとすることができる。

(3) マイプロの評価

総合的な学習の時間の評価に求められる条件（信頼性、多面性、学習状況の過程の評価）を基に、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価を核に評価を行うことが適切であると考えた。そこで、個人探究というマイプロの特性から表3の評価ルーブリックを各プロジェクトのチューターが各プロジェクトの実態に応じて変更し、評価を行うことにした。

【表3】 評価ルーブリック

観点	評価規準	A (◎, 十分満たしている。説明できる。適切である。多様である)	B (○, 満たしている)	C (△, 満たしていない)
知識・技能	知識	探究課題を解決するために必要な知識を身につけることができる。	探究課題の解決に必要な知識を身につけるとともに、探究課題についての概念的知識を身につけている。	探究課題を解決するために必要な知識や探究課題についての知識を身につけていない。
	技能	探究課題を解決するために必要な技能を身につけることができる。	探究課題を解決するために適切な技能を身につけ、常に発揮している。	探究課題を解決するために必要な技能を身につけることができている。
	探究的学習のよさの理解	探究課題を解決していく過程で、探究的な学び方のよさに気付くことができる。	探究的に問題解決したことの成果を自覚しながら、常に探究的に課題解決を行っている。	探究的に問題解決したことの成果を自覚できず、探究的に課題解決を行うことができている。
思考・判断・表現	課題の設定	自分なりの問いや課題解決の見通しなどを基に、適切な探究課題を設定することができる。	自分の興味・関心だけでなく、社会的に意義のある探究課題を設定し、それを説明することができる。また、いつ、何を行うのか具体的な解決の見通しをもつことができる探究課題を設定している。	探究課題についての自分なりの意義を見だせていない。また、解決の方法と期間に具体性と計画性がなく、解決の見通しをもつことができている。
	情報の収集	体験やインタビュー、インターネット、書籍などの様々な手段を活用しながら、探究課題の解決に必要な情報を収集することができる。	ネットや書籍、体験的な活動などの多様な手段を組み合わせ、一次情報や二次情報、三次情報などの課題解決に最適な情報を収集している。	情報収集の手段が乏しく、必要な情報を収集できていない。また、二次情報や三次情報しか収集することができている。
	整理・分析	収集した情報を表やグラフなどを用いて整理・分析したり、仲間と話し合ったりしながら多角的に捉え、必要な情報を選択・判断したり、情報同士を組み合わせたりし、考えを創り出すことができる。	適切な手段を用いて情報を整理・分析したり、仲間の考えを取り入れたりしながら情報を多角的に捉え、探究課題の解決に最適な情報を選択・判断したり、組み合わせたりし、根拠を基にした自分なりの考えを創り出している。	情報を整理・分析することができていない。また、集めた情報のまま使用しており、根拠を基にした自分なりの考えを創り出せていない。
	まとめ・表現	伝える相手や目的に応じて、発表資料の構成や方法を工夫しながら考えをまとめたり、声の大きさや身振りを工夫したりしながら分かりやすく伝えることができる。	伝える相手と目的に応じて、適切な構成と表現方法で考えをまとめている。また、伝える相手や目的に応じた適切な言葉や、身振り手振りを交えながら自分の考えを分かりやすく伝えることができている。	伝える相手と目的を意識した構成と表現方法になっていない。また、伝える相手や目的を意識しておらず、声の大きさや身振り手振りなどを工夫することができていない。
主体的に学習に取り組む態度	主体性協働性	探究課題の解決に向けて計画を修正したり、多様な他者と協働したりしながら粘り強く課題解決に取り組もうとすることができる。	常に探究計画を修正したり、外部人材や学年・学級を超えた多様な他者と協力したりしながら、互いの考えを受け入れ粘り強く探究課題を解決しようとしている。	探究計画を修正したり、外部人材や学年・学級を超えた多様な他者と協力したり、考えを受け入れたりしようとせず、粘り強く探究課題の解決に取り組めていない。
	自己理解他者理解	探究課題を解決していく過程で、自分や他者のよさ、可能性を見いだそうとすることができる。	探究課題を解決していく過程で、常に自分や他者の得意・不得意なことや興味・関心のあることを見だし、それらを探究活動に生かそうとしている。	自分や他者の得意・不得意なことや興味・関心のあることを見いだすことができず、それらを探究活動に生かすことができていない。
	社会参画将来展望	学習したことを生活や学習に生かそうとしたり、新たな課題を見いだしたりしようとする事ができる。	常に探究課題について知ったことや探究的な学び方を生活や学習に生かそうとしたり、新たな課題を見いだしたりしようとしている。	学習したことを生活や学習に役立てようとしていない。また、新たな課題を見いだそうとしていない。

Ⅲ 内容について

(1) 探究課題とプロジェクトの種類

探究課題は、子どもの興味・関心や日常の課題などを基に、一人一人が設定する。ただし、総合的な学習の時間の目標を達成できたり、十分な学習の成果を得ることができる探究課題でなければならない。そのため、本校が設定した下記に示す「探究課題設定の5つの視点」と次項で示す「プロジェクト」を基に探究課題を吟味していくこととした。

- 自分たちの夢や目標、興味・関心や日常の課題などを基に、1年間、探究する必要性や面白さを感じることができる課題
- 探究課題の答えや結果が見通せる場合でも探究の過程（課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を経ながら実際に調べる必要がある課題
- ネットだけではなく、様々な手段（体験、訪問、インタビュー等）で情報を収集できる課題
- 決められた時間と費用で探究の計画を立てられる課題
- 自分たちだけではなく、他の人にとっても価値がある課題

(2) 開設するプロジェクトについて

このマイプロは、令和3年度からスタートした。（スタート時の名称は自分探究クラブ）スタート当初は、子どもに探究課題と開設を希望するプロジェクト（スタート時の名称はクラブ）のアンケート調査を行い15のプロジェクトを開設した。しかし、実際に活動を進めていくと、時間や場所等の制約を受け、探究活動を展開しにくい課題やプロジェクトがあることが分かった。

我々は、このような経験から、子どもの探究活動を支える環境（主に相談できる人々や活用できる材料、活動場所やイベント等）の重要性を再認識することとなった。そこで、これまでの子どもの探究課題の傾向や本校の置かれた教育環境、立地条件等を基に、開設するプロジェクトを吟味し表4に示す10のプロジェクトを開設することとした。尚、このプロジェクトの種類は柔軟に変更していくこととする。

【表4】開設した10のプロジェクト

プロジェクト名	主な探究課題
①ヒストリー&カルチャー	歴史, 伝統, 文化, 言語 等
②サイエンス	液体の性質, 化学反応, 機械工学, 科学実験 等
③ネイチャー	動植物に関すること 等
④SDG s	環境問題 等
⑤ウェルビーイング	健康な生活, 人々の幸福, 心の様子 病気の予防, 医療の発展, 福祉問題 等
⑥ミュージック	楽器の演奏, 歌の歌い方, 作曲の仕方 等
⑦アート&クラフト	絵画, 工作, ものづくり 等
⑧クッキング	料理の種類・作り方, メニュー開発 等
⑨スポーツ (バレー, バスケ, 野球)	競技のコツ, スポーツの歴史 等
⑩プログラミング	プログラミングの仕組み プラグラム作成等

IV 方法について

(1) 3年生前期と6年生後期の探究課題と探究活動

3年生前期は、「情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化」を探究課題とし、学級全体で探究課題と探究的な学び方を学ぶ。そして、後期からのマイプロで探究的な学び方を発揮しながら個人探究に取り組む。

6年生後期は、マイプロでの学びを活かし、「夢や目標の実現に向けた自己の将来展望」を探究課題とし、個人やグループなどで探究活動に取り組む。

(2) マイプロ（3年生後期から6年生前期の子ども）の探究期間

3年生後期から6年生前期の子どもは、同じプロジェクトに所属した異学年の仲間やチューターの先生と一緒に一人一人の探究課題を基に探究活動に取り組む。10月から探究活動がスタートし、次年度の9月までの一年間を区切りとするが、3年間同じプロジェクトに所属し、同じ探究課題を探究していくことも可能である。

【表6】3年生後期から6年生前期の探究期間

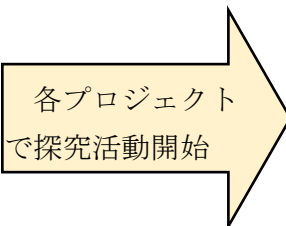
探究課題	興味・関心や日常の課題などを基に、一人一人が設定した個別の探究課題												
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
主な探究活動	スタプロ			情報情報の収集、分析	中間発表 まとめ表現	探究課題の再考	情報の収集	情報の収集	情報の整理、分析	情報の整理、分析	情報の整理、分析	まとめ表現	最終発表
	探究課題設定	仮探究課題設定 プロジェクト決定	プロジェクト決定										
集団	各学級の仲間	同じプロジェクトに所属する異年齢の仲間											
指導者	各学級の担任	各プロジェクトのチューター											

※ 全ての子どもが探究の過程を経ることは共通であるが、上記に示した主な探究活動は一例であり、一人一人によって探究活動の進め方は異なる。マイプロがスタートした最初の2ヶ月間（10月と11月）は、学校全体で探究課題について重点的に考える期間を設定する。この期間をスタートマイプロジェクト（以下、スタプロ）と呼ぶこととする。

(3) スタプロの概要

これまでの子ども達の探究活動に取り組む姿から、粘り強く探究活動に取り組むためには、探究課題の質が重要になることが改めて分かった。そこで、探究課題をじっくりと吟味する期間（スタプロ）を学校全体で2ヶ月間（10月と11月）設けることとした。スタプロの概要は、表7のとおりである。

【表7】スタプロの概要

	10月	11月までに	11月	12月までに	12月
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究課題と計画設定(仮) ・ 担任と探究課題設定の仕方を学ぶ ・ オリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ※ チューター希望調査 ※ プロジェクト選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究課題とプロジェクトの再考 ・ 自分探究クラブ(仮)で探究活動スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ※ プロジェクト決定 	
指導者	担任	チューター			

スタプロの最初の1カ月間(10月)は、各学級で担任と探究課題設定の仕方を学んだり、仮の探究課題や探究計画を立てたりし、所属するプロジェクトを決める。

その後、各プロジェクトに分かれ、同じような探究課題を設定した異学年の仲間と10月に見出した個別の探究課題を実際に探究していく。尚、この期間でのプロジェクト変更は柔軟に行えるようにする。(プロジェクト変更届は提出の必要なし)

(4) チューターの立場と主な役割

チューターは、子ども達一人一人の学びの文脈に寄り添い、解釈に務め、時には助言をしたり、時には学びの意味づけを行ったりする等、探究活動を支える役割を担います。また、子どもの多様な探究活動をよりよく支えるために、各チューターは各プロジェクトごとの計画書を作成する。尚、この計画書は、適宜、加除修正を加えていくものであり、計画書に明記したことに子どもをばめ込むためのものではない。計画書に記入する内容は以下のとおりである。

- プロジェクト名
- 関連が予想される教科等の学習
- 目指す子どもの姿
- 資質・能力と評価ルーブリック
- 想定される主な働きかけ
- ※ 課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の各過程で想定する。
- 関連する体験施設や専門家
- 関連するのぞみサポーター
- 主な指導計画

(5) マイプロ Day について

探究課題の解決に向けた多様な活動（平日の2時間では実施が難しい活動等）にじっくり取り組んだり，これまでの取組を多様な人々（平日の2時間では参観が難しい方々等）に発信したりする時間を確保するために，**平日の1時間目から5時間目までマイプロを行う「マイプロ Day」を設定**した。

ア マイプロデイの実施内容と方法

各チューターと子どもでどのような内容と方法で活動を行うのか事前に決定しておく。内容と方法を考える際は，「連続5時間を探究活動に使える」というマイプロデイの特性を基に内容と方法を決定すること。

例：学校で1日探究，どこかに見学に行つて探究

専門家を学校に招待して探究，保護者等を学校に招待して発表など

イ マイプロデイの主な流れ

- ① 登校後，各教室で各担任と朝の会（出席確認）を行う。
- ② 朝の会后，子どもは各プロジェクトの集合場所に行き，各チューターと活動を開始する。各活動場所へ移動する際，荷物は各学級に置いておくようにする。つまり，活動に必要な荷物だけ持って行くようにする。
- ③ 5校時終了後，子どもも各チューターも各教室に戻り，各担任と給食を食べる。
※1年部と2年部の先生方は，1年い組で給食を食べる。
- ④ 昼休み，掃除，帰りの会，下校については，平常（月火水金）の考え方で行う。

※1・2年教室担当の児童は，自分の教室を掃除する。

ウ マイプロ Day にかかる費用

これまでのマイプロの考え方と同様に，移動費や材料費などについては自己負担とする。必要な費用や準備物等は，各チューターが確実に子どもに連絡しておく。

エ 1・2年生の子どもの動き

1・2年生については休校とし，家庭学習（登校しない）を行う。

V マイプロ指導上の留意点

(1) 校外での活動について

マイプロの時間を使って，校外での体験活動を行うことは可能である。その際は，担当チューターが校外学習申請書を作成し，**主幹⇒管理職の順で決裁を受ける**こと。また，校外での活動を行う場合の勤務処理は，鹿児島市内の場合は別勤処理が必要になる。校外での活動の際は，申請書の写しを添えて研修承認簿を事務へ提出すること。校外学習申請を受けずに，校外での活動を実施し，子どもや先生方自身に事故や怪我が起きてしまった場合，日本スポーツ振興センターやカンガルー保険の補償対象外となってしまう可能性がある。そのため，実施の場合は必ず校外学習申請を事前に済ませておく。また，体験を行う施設に何度も問い合わせたり，コミュニケーションの行き違いを防いだりするために，子どものみで校外施設にアポを取ることがない

ようにする。しかし、各チューターが事前に子どもの意見を集約し、どこにどのような連絡を取るのか把握した後は、各チューター同伴を条件に、子どもが施設にアポを取ることは可能である。尚、放課後や土日を使って子どもたちが施設等での調べ学習を行うという場合も考えられる。その際、事故や怪我が起きてしまった場合は、日本スポーツ振興センターやカンガルー保険の補償対象外となる。

(2) 外部講師及びのぞみサポーター招聘

外部講師の招聘は、基本的には担当チューター主導で行う。**招聘したい外部講師がいたら、企画書（招聘する外部講師の情報や活動のねらい、活動案、活動時期等）を作成し、主幹へ提出**すること。それを基に、主幹がまず先方にアポを取り依頼する。招聘可能であれば、その後の打ち合わせについては、各チューターで行う。共同研究者や普段から交流がある方を招聘する場合は、主幹を通さずチューターが直接交渉しても構わないが、その際も事前に探究係に企画書を提出すること。講師の選定には先生方に協力いただいている人材リストも活用すること。マイプロサポーター（保護者）への依頼は、各チューターが直接行う。基本的にボランティアで参加していただくことになるため、講師を招聘する際は、そのことも相手方に伝えるようにする。専門家の話を聞いたり、助言をいただいたりすることは、子どもたちの考えが広がったり深まったりすることに有効である。対面での活動が難しい場合は、リモートも取り入れるなどして、外部講師の積極的な活用を進めること。

(3) マイプロコーディネーター

マイプロのコーディネーターとして、主幹、教頭を置く。コーディネーターの役割は、次の通りである。

- 活動についての助言や支援（チューターからの相談を受け助言を行ったり、必要に応じて一緒に活動したりする。）
- 関係機関や外部講師の調整（各グループで活動したい施設や招聘したい講師がいた場合は、活動可能か、講師招聘は可能か連絡を取る。その後の打ち合わせ等については、各チューターで実施する。）
- 補教

(4) 活動に必要な物品及び費用

マイプロで使うノートや紙類、材料等は原則子どもが各自で準備する。消耗品等で必要な物がある場合は、その都度コーディネーターに相談する。実験や調理実習、製作等で必要な材料費は子どもの自己負担とする。その都度各チューターで集金を行う。

(5) 安全指導及び下校指導

活動中は、体験的な活動を実施する機会が増えることが考えられるが、安全面への十分な配慮をすること。活動中に、体調不良、怪我等があり保護者への連絡が必要となった場合は、原則チューターから保護者へ連絡をすること。下校指導は、各チューターで行う。担任同様、正門までの見送りをすること。

VI チューターについて

チューターの配置について		
プロジェクト名	名前	場所
①ヒストリー&カルチャー	中野先生	イングリッシュルーム
②サイエンス	上ノ町先生	第1理科室
③ネイチャー	齊藤ゆ先生	2い
	小瀬先生	2ろ
④SDGs	三宅	4は
	堀之内先生	4に
⑤ウェルビーイング	砂野先生	複Ⅱ
⑥ミュージック	渡邊先生	第1音楽室
⑦アート&クラフト	齊藤と先生	図工室
	椎葉先生	6い
	前下先生	6ろ
	荒木先生	6は
⑧クッキング	森永先生	家庭科室
	赤井先生	5い
	内山先生	5ろ
	泊先生	5は
	山田先生	5に
⑨スポーツ ・ソフトバレーボール ・バスケットボール ・野球	東峯先生	校庭
	橋元先生	体育館
	山口先生	1い
	岩田先生	1ろ
	今井先生	1は
⑩プログラミング	内田先生	4い
	繁山先生	4ろ
⑪3年い組	鎌迫先生	3い
⑫3年ろ組	福森先生	3ろ
⑬3年は組	押領司先生	3は
⑭複式Ⅱ組	柏木先生	複式Ⅱ組